

部 会 会 議 録

周南市まちづくり総合計画審議会・第2部会 第3回	
日 時	平成21年8月5日(水) 15:00～16:50
場 所	周南市役所 徳山港町庁舎 第5会議室
出席者	委員 8人 (欠席4人)
	和田部会長、山崎委員、藤本委員、佐々木委員、末廣委員、吉谷川委員、棚田委員、平岡委員 (欠席:岸本委員、有國委員、杉光委員、中村委員)
	事務局 11人
	環境下水道部:住田部長、今本主幹(環境政策課) 村井課長補佐(環境政策課) 橋本課長補佐(環境政策課) 林田課長(リサイクル推進課) 石田部次長、半田課長(下水道政策課) 石井課長補佐(下水道政策課) 弘中室長(公営企業移行準備室) 岡田課長補佐(下水道工務課) 小林課長補佐(下水道施設課) 水道局:重永副局長、渡辺局次長、高橋主幹(総務政策課) 企画課(原田課長補佐、亀割、吉村、平海)
資 料	後期基本計画(素案):配布済み 第2部会第2回会議録

会 議 内 容
<p>1. 審議</p> <p>(1) 章の構成等について</p> <p>(委員) 上下水道の経営とあるが、本来は都市基盤の章で扱うべきではないか。また、ここでは経営という見出しになっているが、上下水道の整備についてはどこに記載されているのか。</p> <p>(事務局) 上下水道は都市基盤の一つであるという考え方はある。この計画では都市基盤について、ひと・もの・情報が交流するということで道路や港湾などの目に見える形での整備と快適な都市空間ということで公園や居住環境といった空間の整備という2つに分けている。上下水道については地下に埋まっており直接目には見えず、生活のなかで水を使ったり下水を流したりということから生活環境のなかに位置付けた。また、経営という見出しにはなっているが、そのなかで文言としては簡単かもしれないが整備についても記載されている。</p> <p>(委員) 整備については主要事業に入っているということか。</p> <p>(事務局) 整備について基本的には個別の事業ということになるので主要事業で挙げている。また、推進施策の展開の項目のなかでも水道基盤整備を進めるということで記載している。</p> <p>(部会長) 101ページの現状と課題のなかで産業活動の活性化を図るためにとある。水道は産業活動にも当然使われているので、生活環境だけに位置付けられるのか。産業活動も見据えて都市基盤のなかで位置付けることも可能なのではないかと。5章を</p>

見ると、上下水道については周南市に関わることだが、低炭素社会や循環型社会、自然環境ということは周南市の地域環境だけではなく地球環境にもつながるようなテーマなので上下水道とは分けて位置付けるべきテーマではないか。こういったことも整理する必要があると思う。ぜひご検討いただきたい。

(2)「5-1-1 低炭素社会の実現」について

(委員) 次の循環型社会の実現についても言えることだが、戦略プロジェクトで挙げている環境立市という言葉の基本方向に盛り込めないか。推進施策の展開の一つの見出しとして環境立市という言葉はあるが、もっと大きく取り上げた方がインパクトがあって良いのではないか。

(部会長) 大きな方向性として環境立市を謳っているのに、さらに推進施策という細かいところで環境立市を扱うというのは構成として良くないのではないか。何を書くべきかをよく考えて、異なるタイトルをつけた方が体系上すっきりするのではないかと思う。また、先ほど委員が述べられたように、15ページにある戦略プロジェクトの考え方が5-1-1や5-1-2の基本方向とリンクして位置付けられるべきだと思う。

(委員) 低炭素社会や循環型社会の実現に向けて周南市が何をするのがよく分からない。

(部会長) 環境立市ということを大きな目標として、低炭素社会あるいは循環型社会を実現していくために市民も行政も含めて周南市として何ができるのかということを考える必要がある。

(委員) 一人ひとりが気をつけることが必要。

(部会長) 一人ひとりが気をつけるためには、啓発活動をきちんとしていかなければならないということになる。推進施策として意識を高めるような取り組みをしていかなければならない。

(委員) 啓発活動は非常に大切だと思う。特に子どもたちへの教育が大切だと思うので、教育活動にもしっかり取り組んでもらいたい。

(部会長) 循環型社会の実現では環境教育についての記載があるが、ここではその項目がないので、啓発活動と併せてあっても良いのではないか。

(委員) 低炭素社会の実現のためには、次の循環型社会で扱うゴミの減量なども含まれてくると思う。低炭素社会と循環型社会という2つに分けて扱う必要があるのか。低炭素社会の実現という大きなテーマのなかに、循環型社会が含まれるのではないか。テーマが大きすぎるために、具体的な指針を示すことができないのではないか。

(部会長) 方向性としては分かるが、具体論としては何かということだと思う。

(委員) 低炭素という言葉が独り歩きして、その言葉に振り回されているのではないか。ハイブリッド車を導入して大きな車に変えるのでは意味がないように思う。行政としては公共交通網をしっかり整備することが本当の意味での低炭素社会へつながっていくのではないか。低炭素という言葉で項目を作っているために、具体的なものが出せなくなっているように思う。項目としてこの言葉で良いのか。

(部会長)最初に議論した枠組みをどう整理するかということと絡んでくることだと思う。

(委員)地球温暖化を防止するためという大きな枠のなかに、低炭素社会の実現や循環型社会の実現が入っていると思う。しかし、今の計画では低炭素社会の実現というテーマのなかに地球温暖化防止が一つの項目として入っている。これは逆なのではないか。

(部会長)5-1-1、2、3については地球規模の大きな内容を含んでいると思う。ここまでの意見をまとめると、目的としてグローバルな課題である温暖化防止があって、そのためにローカルな課題として周南市として何をするのかという整理の仕方をしていくべきではないかということになると思う。

(委員)快適な生活環境という5章のテーマと低炭素社会や循環型社会とが結びつかないように思う。快適な生活環境と聞くと交通や買物が便利ということが浮かんでくるので、そちらに軸を置いた方が分かりやすいのではないか。快適な生活を送るための公共交通機関の整備というようなところでノーマイカーデーなどとも絡められるのではないかと思う。大きすぎるテーマに対して何をするのかということを出していくことは難しいのではないか。

(部会長)最初の議題とも関わってくることになるが、上下水道については都市基盤で扱い、5章としては地球温暖化防止に貢献するというテーマにするという整理の仕方をした方が分かりやすいのではないかというのがここまでの意見になると思う。ここまでにについて事務局から何かあるか。

(事務局)前期の計画では循環型社会という項目1つで、道路や港湾などの都市基盤のなかに入れていた。今回はもう少し小さく分野ごとに分けるということで、環境については3項目に分けた。また、低炭素社会のなかに循環型社会が含まれるという考え方もあるが、ごみの問題というのは市としても大きな問題として捉えており、あえて低炭素社会と循環型社会という2つに分けるという構成にした。地球温暖化防止や環境立市といった言葉については、今出された意見も踏まえてもう少し検討したい。

(事務局：環境下水道部)低炭素社会・循環型社会・環境保全というテーマについては市単独でできるものではなく、市民の皆様の協力が必要不可欠であり基本的にハード事業はない。ソフト事業をどう展開するか、教育・啓発をどうするかというのが重点的な施策になると思う。ただ、切り口として低炭素社会の実現では地球温暖化防止のために二酸化炭素を減らす生活を作っていこうということ、循環型社会の実現では主にごみを減らす、再使用する、再資源化をするという3Rを行っていくということになる。間接的に二酸化炭素を出さないということになるが、あくまでも資源を大切にするという切り口なので、低炭素社会の実現ということとは切り離すべきではないかと思う。自然環境の保全については後世に残すべき自然を大切にしていこうということで、やはり3つの分野には分かれるのではないかと考えている。

(部会長)3つに分けることについて個人的には理解もできるので、上下水道との整理と全体のストーリーが分かるようになればと思う。上下水道について、環境下水道

部という他の部分と同じ組織にあるということなので5章に入っているということはないのか。

(事務局) 結果としてそうなのである。快適さについて都市基盤では快適な都市空間という言い方をしており、上下水道については生活に直接密着しているということで5章に含めた。

(部会長) 箱物だけではなく、ソフト・人間生活も含めて空間というものが成立しているということを少し意識していただければと思う。

(3)「5-1-2 循環型社会の実現」について

(部会長) 基本方向の文章を少し考える必要があると思う。

(委員) 今の基本方向ではごみだけが主役になっており、ごみの循環だけを考えているかのように思える。3R運動には消費なども含まれ、ごみなどの物質の循環だけではない。発生抑制ではなく使用抑制にもっと取り組んでいく必要がある。人口に対する資源の使用をどれだけ減らしていけるかが重要なのではないのか。

(部会長) ごみが発生した後の処理や再資源化をどうするかということが記載してあるが、その前の段階の再使用等が必要ということかと思う。

(委員) 地産地消は地域の活性化だけでなく、輸送経費の削減といった省資源化につながっているので、大きな省エネになると思う。循環型社会というなかには、地域で調達できるものは全て地域で行うという表現も入って良いのではないのか。

(部会長) 循環型社会を実現するためにも地産地消型の地域経済システムを確立し、地域内での物質循環の仕組みを作るという方向性があるのも良いのではないのかという考え方をご提示いただいたが、どうだろうか。

(委員) 進む方向としてはそうあるべきだとは思うが、スケールメリットを生かして安く売るといったことができないことから割高になってしまうこともあり地産地消は難しいという事実もある。

(部会長) リサイクルについては、行政や市民だけでなく事業者としての責務・立場も大きな要因となってくると思う。事業者の立場として地産地消だけでなく、循環型社会というテーマについてどう思われるか。

(委員) 最近の大きな出来事として、レジ袋の有料化がある。山口県全体で進めているので、これだけ上手くいっているのだと思う。

(委員) スーパーの過剰包装ということについてはどうか。

(委員) その点について、レジ袋の有料化もあって意識が大きく変わってきた。

(委員) 消費者が変わらないといけないということか。

(委員) 事業者としては好んで過剰包装にするわけではないので、簡易な包装に対して消費者の方にどれだけ理解していただけるかということだと思う。

(委員) やはり教育や啓発が必要だと思う。

(部会長) 行政の旗振りと事業者の協力によって市民の意識啓発や環境教育が必要となるということだと思う。だとすれば、施策の展開で4番目に挙げられている環境教育を1番目にしてもいいぐらいかもしれない。

(委員) 循環型社会については今の内容の骨子で良いと思う。地産地消については様々なメリットが出てきているので、ここでそういったことも取り込んだ形で盛り込むと掴みどころがない感じになるので止めた方が良いと思う。

(部会長) 地産地消について、産業でメインとして扱うが、それがここと連動することによって循環型社会の実現にも貢献するという考え方は抑えておく必要はある。

(委員) 地産地消だけではなく、各分野で低炭素や循環型社会の実現に係る事業があれば、環境立市に向けて支援するというようなことを盛り込めば良いのではないか。

(部会長) 5-1-1、2に限らず、各分野各項目で環境を意識した表現を入れるという方法もある。そうすれば、大きな方針としての環境立市ということが全体に浸透しているということになるのではないか。エコタウン事業についてはどうなっているのか。コンビナートの再活性化を図る時に、市町村内で出た廃棄物の再資源化をビジネスとして行うことで新しい環境貢献型産業を起こしていくという積極的な方向性があっても良いのではないかと思う。

(事務局：環境下水道部) 周南市においては、一般廃棄物などをセメント原料として再資源化しており、それをビジネスとして行っている事業者も多い。エコタウン事業という名前はついていないが、事業としては周南市でも行われている。

(部会長) そういったことが産業振興につながるという側面があるのであれば、環境立市を目指すために攻めの取り組みがあっても良いのではないかと思うので、ご検討いただきたい。

(4)「5-1-3 自然環境の保全」について

(委員) 中山間地域では高齢化が進み、自然環境を維持していくことが難しくなっている。また、水田の維持等についても米の価格が下がってきているなどのことから意欲が落ちてきている。

(部会長) 農林業の経営問題と併せて、厳しい状況のなかで誰が自然環境を守るのかということが大きな課題となっている。誰がということをはっきりさせておかなければ、守る・再生するということが本当にできるのかという切実なご意見だと思う。

(委員) 若者が減っていくなかで、誰が地域を守るのかと不安になる。

(部会長) 99ページの推進施策の展開では、地域住民やボランティア団体等との協働によりとあるが、一方が欠落してしまうこともある。自然環境の保全だけではなく、そこに住んでいる人の生活をも守るということも視野に入れて対策をしていかなければいけない。

(委員) 自然環境の保全について、森林や田畑の記載はあるが竹林ということが入っていない。老人クラブなどで自然環境について話すと、必ず竹のことが出て来る。竹は竹炭に利用できるなどの良いところもあるが、竹林の管理は難しいという面もある。

(部会長) 大きく言えば森林というなかに含まれているかとは思ふ。竹林についてはそのなかでも特に顕著な問題であり、同時に可能性のある資源として見ることもでき

るのでそういった表現を入れるという方向性があっても良いかもしれない。

(委員) 高齢者だけでは、米を作ることさえ不可能になってくるかもしれないという厳しい状況のなかで、例えば循環農業を支援して若い人や子どもたちに興味や関心をもってもらうということが大切だと思う。もちろん、長い年月がかかることだとは思いますが、その地域でしっかりと生活していけるということを知ってもらうことが必要だと思う。

(部会長) 今のご意見は、131 ページで農業の振興について記載があるが、こういったことを意識しながらでなければ自然環境の保全はできないということだと思う。

(委員) U ターンについて市が取り組んでいることは知っているが、あまり上手くはしていないのではないかと思うので、もっと何かUターンしてくる人たちに対しての支援などがあれば良いのではないか。

(部会長) 海についての記載がないので、その点について修正や加筆ができればご検討いただきたい。

(事務局) 自然環境ということは、農林水産業や中山間地域の振興といった様々な分野に関わってくることである。農林水産業のそれぞれに農地の保全や中山間地域の振興についてということは入っているが、この節ではそういったこととかぶらないように整理している。自然環境の保全について、具体的に何をするのかということは難しいところではあるが、空気や水、海などを含めて市の方向性を示すということで整理させていただきたいと思う。

(部会長) 5-1-1 と 5-1-3 の基本方向でまちづくりを進めますという表現がある。まちづくりというのは何にでも使える言葉ではあるが、自然環境や低炭素の部分でまちづくりという言葉が出てくるのはどういった意図があるのか。ここで言うまちづくりとは一体どのようなものか。

(事務局：環境下水道部) 確かにまちづくりという言葉は使いやすい言葉であり、ここで使うべきかどうかについては、確かに疑問点がある。取り組みますといった主体性をもった言葉にすべきではないかと思っている。計画なので方針がストレートに伝わる表現にするべきだと感じているので、修正するかどうかについて検討させていただきたい。

(5)「5-1-4 上水道の経営」について

(委員) 102 ページの(3) 経営の安定化で上下水道の組織統合について検討を進めますとあるが、下水道では上下水道の組織統合を推進しますとある。現状はどうなっているのか。

(事務局：環境下水道部) 下水道について、公営企業法全部適用ということで2年後には水道と同じ経営体制となるので、現在はその準備をしている。その時には、上下水道が一緒になって合理的な運営を行っていくこととしている。ご指摘された表現については統一したいと思う。

(委員) ここでは市民に上下水道という生活環境をどう提供していくかという提供する側の意志が本来書かれるべきだと思う。今の計画では、上下水道のない地域をこれ

からどうしていくのかというビジョンがはっきりしない。

(部会長) 市民と行政が協働で行うという総合計画のなかにおいて、上下水道に関して狭い意味での経営という捉え方をして良いのかというご意見だと思う。

(委員) 上水道に関しては、経営の前にまず整備があるべきだと思う。

(委員) 上下水道は都市基盤の重要な一角を担うものである。しかし、ここでは維持管理面だけが書かれており、整備をどうするのかということが見えてこない。

(部会長) 基本方向に整備ということが入っていないので、その点についてどういった方向で出すのかということだと思う。

(委員) 中山間地域に下水道を完備するということは不可能に近い。合併浄化槽設置に対する支援など、整備ということについて様々なアプローチの仕方があるのではないか。

(部会長) 市民の負担と事業の経営など、様々なことを見据えながら考える必要がある。101 ページの都市地域と中山間地域とを比較した市民の評価を見ると、中山間地域ではやや不満や不満が多くなっている。こういった表を使ったのであれば、不満があるところに対して整備をどうしていくかを方向性としてでも示す必要があるのではないか。整備についての現状や今後の計画についてどうなのか、またその上でどういった方向性が示せるのかを教えていただきたい。

(事務局：水道局) 水道事業として、中山間地域について総合計画の期間中の水道の敷設を行う予定は現在のところない。そのため、今回の計画で整備について入れることができなかった。

(事務局：環境下水道部) 水道事業には、水道局が行う水道事業とわれわれが行う簡易水道事業とがある。合併時のリーディングプロジェクトの一つである熊毛地域の水道整備事業については、水利権の分割を光市と行い整備を進めようとしている。まだ水利権分割の認可が総務省から出ていないので現在は動けないが、認可が出れば整備を進めるということは考えており、この計画のなかで文章としても書いている。

(部会長) 現在の段階でははっきりと計画に書けない面もあるが、今後国との調整等を行いながらも水源の確保に努める方向であるということ間違いのないと思われる。項目を一つ作ることは難しいかもしれないが、5年間の何らかの方向性を示すということがあっても良いかと思う。

(委員) 今ある(熊毛地域内の)簡易水道を拡大していくことはできるのか。

(事務局：環境下水道部) 簡易水道は一つひとつで県からの認可を受けている。その認可を拡大していくということであれば認可を取り直さなければならないので、それはできない。ただ、島田川からの水利権を獲得した後のことにはなるが、(熊毛地域内の)12簡水をつないでいくという方向性はもっている。

(事務局) 様々な市の施設等について老朽化しているものも多く、今後維持管理費が大きな負担となってくる。そういった状況のなかでしっかりとした経営を行うことが、安定した水の供給や下水の処理などにつながるということから今回は経営という見出しをつけた。

(部会長) 基本方向の書きぶりとして、経営のことを見据えつつ整備については検討するとともに既存施設の老朽化を踏まえその適切な維持管理を通じて安全で安定した水道水の供給に努めます、というような書きぶりがあれば今の事務局の考え方が適切に表現されるのではないかと思う。

(6)「5-1-5 下水道の経営」について

(委員) 105 ページに下水道施設の資産管理とあるが、下水道台帳管理システムを整備する目的は施設の改築等か。

(事務局：環境下水道部) 今から2年かけて下水道事業は公営企業事業となる。そのため、償却資産を適切に管理するために今ある下水道の資産をデータ化して保有する必要があることと、適切なアセットマネジメントをしていく必要があることから台帳システムの整備が必要となっている。

(委員) 台帳管理システムの整備率を目標指標としているが、整備は当然すべきことなので目標とすることではないのではないか。整備を行うことによって経費等がどうなるのかということを目標指標とすると分かりやすいのではないか。

(事務局：環境下水道部) 紙の台帳はあるが、償却資産の適切な管理からそれをデータベース化していかなければならない。

(部会長) ここの表現は、経営方式が変わった後にしっかりとスタートが切れるような準備作業を行うということだと思う。経営方式が変わることから、情報面からの経営基盤を固めるとともにその作業を通じてより積極的な事業展開が行えるような基盤を整えて次へつなげていく、というような次につながる書きぶりがあると分かりやすいと思う。

(事務局：環境下水道部) 延命化や改修計画については4の(1)で挙げている下水道長寿命化計画のなかに反映したいと思っている。

(委員) 目標指標で挙げている数値について「28.1」のように書いているが、数値を丸めることはできないのか。

(部会長) この数値の根拠は何かということでもあると思う。

(事務局：環境下水道部) この数値は106ページにある式に当てはめて出している。都市浸水対策達成率について、雨水整備は区画整備事業や街路事業と併せて行っている。また、新南陽の新地地区で現在雨水ポンプ場を22年度末を目標に整備している。雨水整備済区域の面積を広げていくことで達成率が上がることとなる。

(部会長) 予測値なのか目標値なのかということも考える必要がある。目標として目指しますということと事業を行えばこうなりますということとは少し違うと思う。指標によって考え方等も違ってくると思うが、ある程度の共通認識を持った方が良いと思う。目標指標の全体を通しての考え方はどうなのか。

(事務局) 目標数値そのものについては、各担当課で検討して出している。整備率等のお金をかければ上がっていくものもあれば、あまりお金をかけずに教育や啓発によって数値が上がっていくものもあると思う。特にお金がかかるというものについては、現状の長期計画をもとにした予測値的なものになるものもあると思う。目標の

設定については今回が初めてなので手探りの部分もあり、数値の出し方が分かりにくいというものもあると思う。目標指標についての説明書きが必要とは思っているので、検討させていただきたい。

(部会長) 上水道でも出たが、見出しが経営で良いのかどうかということも含めて検討させていただきたい。

(7) 3章～5章を通して

(委員) 各分野のトップページに、この章ではこういったことを述べるという説明書きを入れて欲しい。そして、その説明のなかに重点プロジェクトが盛り込まれれば良いと思う。

(委員) いのちを守る、という方向で全てが繋がっていけば良いと思う。

(委員) これからは地域や団体会で高齢者を見守るといことも必要となってくる。老人クラブでもそれに対してどうするのかを話し合っている。老人クラブにとっても今回の審議会は参考になった。

(委員) 地域審議会という場合は地域の情報を行政に提供することが大きな課題となるが、今回の総合計画審議会では行政としてこうしますという行政側の意志をもう少し強く出しても良いのではないかと思う。

(委員) 身近な問題に目が行って、問題意識を感じていない部分についてはそのまま読むだけになってしまう。特色ある市の在り方が出していけたら良かった。

(委員) これから周南市がどうなっていくのかがはっきり見えてこない。

(部会長) 私も全体のビジョンが欲しいと思う。また、誰が誰に対してという主体を意識した書きぶりや施策の進め方が分かるようになればより理解しやすいのではないか。

(事務局) 貴重なご意見をありがとうございました。総合計画ということで、全ての分野を網羅した上位計画になるので、具体的なものが見えにくく分かりにくいということはあるかと思う。ただ、この下に実際に事業についての様々な実施計画を出していくこととなるので、そのなかで具体的なものが見えてくることになることと思う。それぞれの項目についても、分かりにくいということがあったので整理をしていきたい。全体会の際に、第2部会が出た意見について答申という形で出させていただくようになると思うので、またご協力をお願いしたい。

(事務局：環境下水道部) 切り口という問題があると思う。複数にまたがる問題をどこに置くかということが周南市のカラーになると思う。上下水道について、都市基盤ではなく生活環境に持っていったのは生活環境という身近な問題として取り上げたいということがある。市民の方の意見を直接お聞きし、参考になることが多々あった。できる限り良い方向に持っていけるように対応していきたい。

(部会長) それぞれの立場で気付いた身近な問題を言い合いながらまちづくりを進めていくことができれば良いと思う。

以上